**市政トピックス**

**●市民の生命と財産を守る　大崎市消防団出初式**

　　1月6日、市民会館を会場に大崎市消防団員と大崎市婦人防火クラブ員710人が参加し「大崎市消防団出初式」が開催されました。

　大崎市消防団の菅原董悦団長は「我々消防団はこれまで幾多の災害を経験し、多くの課題と教訓に対して引き続き対処しなければならない。なお一層消防力の強化に努め、市民の生命と財産を守るという消防の使命感を持って任務にあたっていく」と、消防団活動の重要性を団員と共に確認しました。

　また、同会場で行われた古川支団の出初式では、放水訓練が披露されました。

　暖房器具などの使用が多く、乾燥するこの時期は、火災が発生しやすい時期となります。暖房器具は正しく使用し、外出や就寝前は消火を確認するなど、皆さんで防火意識を高く持ちましょう。

写真1：古川支団による一斉放水が披露され、無火災を願いました

写真2：▲女性消防団員も参加し、防火・防災への決意を新たにしました

**●化女沼の豊かさとこれからを考える ラムサールフェスティバル**

　　1月19日、化女沼のラムサール条約登録から10周年を記念して「ラムサールフェスティバル」が開催されました。

　これまで、化女沼の環境保全や景観美化、環境教育などには、世代を問わず多くの人と団体が携わり、動植物と人の共存を深化させてきました。フェスティバルでは、各団体の活動紹介やパネルディスカッションが行われ、分野や立場を超え、さまざまな角度から化女沼の今後の展望を考えました。

　基調講演では、日本野鳥の会会長の柳生博さんとNHKプロデューサーの小野泰洋さんが対談。ガン類が舞う風景や植物の在来種を再生する活動を評価いただき、動植物の多様性が人々の暮らしに彩りを生み、美しい四季の移り変わりを感じさせることなどをお話いただきました。

　最後に、化女沼が自然を身近に体感できる場にすること、豊かな環境を次世代につなぐこと、亜種ヒシクイなどの「ねぐら」を保全することなどが盛り込まれた「化女沼宣言」が読み上げられ、参加者全員で、化女沼の自然を未来へつなぐことを誓い合いました。

写真1：「確かな未来は懐かしい風景の中にある」と話す柳生さん（写真左）と小野さん（写真右）

写真2：化女沼の環境美化・保全の第一人者と移住者、学生によるパネルディスカッション

**●2019　1月の主な出来事**

|  |  |
| --- | --- |
| 1日 | ●第53回まつやま元旦マラソン＆ウォーキング大会 |
| 4日 | ●仕事始め●第11回宝の都（くに）・　活性化貢献賞贈呈式並びに新春講演会●大崎市新年祝賀会 |
| 6日 | ●大崎市消防団出初式 |
| 13日 | ●大崎市成人式（古川地域・松山地域・三本木地域・鹿島台地域・岩出山地域・田尻地域） |
| 19日 | ●化女沼ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム 大崎市ラムサールフェスティバル |
| 22日 | ●第3次大崎市男女共同参画推進基本計画答申 |
| 25日 | ●東北中学校体育大会第55回東北中学校スキー大会開会式 |

写真：高校生タウンミーティングを開催し、ふるさと納税について考えました

**地域発　お・ら・ほ・の・ま・ち**

自分の住む地域を「おらほ」というと，親しみや愛着を感じませんか。

おらほの地域づくり，おらほの隠れた名所，おらほのおいしい特産品，おらほの伝統のまつり，おらほのイベント・・・。

そんな，愛してやまない「おらほの地域」を発信します。

**●三本木発！成人の誓いを胸に**

　1月13日、市内の6地域で成人式が行われました（鳴子温泉地域は8月に実施）。

　今年、市内で成人を迎えたのは1,138人。艶やかな振り袖やスーツ姿で式典に出席し、同窓生との再会を喜び合いました。会場では、恩師からのビデオメッセージや思い出写真の上映など、各地域の実行委員会が工夫を凝らした演出がありました。

　三本木地域の式典に出席した新成人は「早く結婚して、幸せな家庭を築くのが夢」「尊敬する人は両親。立派な大人になりたい」と、夢や目標を話してくれました。

　成人を迎えた皆さん、おめでとうございます。

写真1：成人の誓い（三本木地域）

写真2：晴れ着での記念撮影は一生の思い出！（三本木地域）

**●岩出山発！新年の始まりに心と身体を鍛える**

　1月12日、岩出山体育センター・岩出山武道館で、10,000人寒げいこが行われました。

　柔道、剣道、空手道、なぎなたの4種目で、幼児から一般、指導者など約90人が一堂に会し、けいこを通して心身を鍛えました。

　「10,000人寒げいこ」は、県公立武道館協議会に加盟する武道館の共通事業として毎年開催されています。

　参加者の皆さんは、日頃の鍛錬にも増して、気を引き締めた様子で寒さを吹き飛ばすように、けいこに励んでいました。

写真：それぞれの種目に分かれ、心地よい汗を流しました

**●松山発！ひと打ち、ひと打ちに思いを込めて**

　　1月5日、9代目法華三郎信房さんの日本刀鍛錬所（松山地域）で、新春恒例となっている日本刀「大和伝」の打初式が行われました。

　正月の縁起物として打ち初めを見物する人も多く、毎年、後援会や地域住民、日本刀のファンらが全国から駆け付けます。今年は、100人を超える見物客がその様子を見守りました。

　1年間の作業安全や技術向上を祈願する神事のあと、材料となる玉鋼を約1200度まで熱し、刀打ちが披露されました。長男の栄喜さんが、勢いよく玉鋼に大槌を振り下ろすと、火花が飛び散ります。迫力ある鍛錬と瞬く間に飛び散る火花に、見物客から驚きと歓声が沸いていました。

写真：見物客の目と鼻の先で火花が飛び散ります